INTERVIEW

グローバル規模までカバーした高付加価値ホスティングサービスを提供

小規模なシステムを運用している中小企業から、グローバル規模でアプリケーションパッケージを活用している大企業まで、高品質で運用付加価値のあるホスティングサービスを提供できるのが、NTTコミュニケーションズのエンタープライズ・ホスティング・サービス（EHS）である。本サービスの展開について、同社のITマネジメントサービス事業部ホスティングサービス部の岸本慎吾部長にうかがった。

NTTコミュニケーションズ㈱
ITマネジメントサービス事業部
ホスティングサービス部
部長　**岸本 慎吾**氏

アウトソーシングサービスの需要に応える「ホスティングサービス」

――まず、アウトソーシングサービスの市場動向からお聞かせ下さい。

岸本　日本のアウトソーシングサービス市場は、年率で7～8％で拡大を続けています。このような需要の増加には、IT関連の各種課題が顕在化してきたという理由があります。まず近年では、日本企業の海外進出が増加していますが、それに伴い現地で受けられるITサービスの地域間格差が発生してきています。また、緊急時における業務システムの事業継続性の確保、技術革新に耐えうる人材の不足、広範囲なセキュリティ確保のための多大な投資が必要である等、多くの課題が現実のものとなっています。さらに、日本版SOX法やe文書法等、内部統制に関してITの果たす役割の重要性も増しています。このような課題の解決に効果的なのが、サーバや通信機器といったハードウェアに保守・運用等の付加価値を加えて企業に提供する「ホスティングサービス」です。

――御社は企業向けホスティングサービスのリーディングプロバイダーとして知られています。

岸本　当社の企業向け専用サーバホスティングサービスは、130社超のユーザ様にお使いいただき、運用面で豊富な実績とノウハウを蓄積しています。特にメールホスティングでは1社1万アカウントを超えるサービスを提供しています。また、当社のグローバルに展開するネットワークやデータセンターを活用し、サーバマネジメントや災害対策ソリューションも用意していますので、ワールドワイドにサービスを提供し、世界に広がる企業拠点をサポートできます。

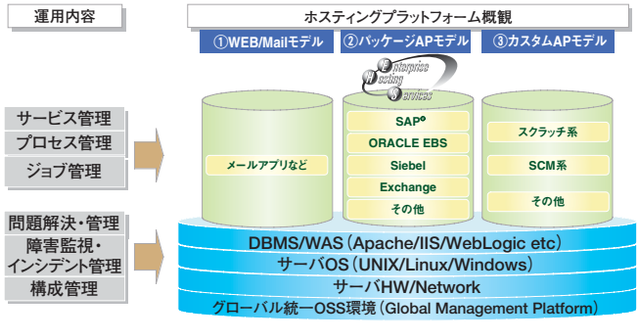

図1　EHSサービスイメージ

グローバル規模で同等のサービスを提供できるEHSの強み

――御社で提供されている「エンタープライズ・ホスティング・サービス（EHS）」はどのようなサービスですか。

岸本　日本を中心とした世界に拠点を持つ多国籍企業に、アプリケーション／ミドルウェア／保守運用を含めたサービスをご提供するホスティング・ソリューションです。当社のホスティングプラットフォームにおいて、ハードウェアからアプリケーションまで、一元的な運用サービスを提供します。図1に示すように、メールアプリケーション中心の「Web/Mailモデル」、既存のパッケージを活用した「パッケージAPモデル」、カスタムメイドの「カスタ

ムAPモデル」といったモデルを用意しています。

――EHSの他社にない強みはどのようなところにありますか。

岸本　まず、当社のデータセンターからネットワークまでワンストップでサービスを提供しているのが大きな強みです。また、当社はグローバル・マネジメント・プラットフォームを用意しているので、プラグインするだけで、米国、ヨーロッパ、アジアの拠点からほぼ同一の料金で同じ品質のサービスを提供することができます。これにより、アプリケーションパッケージを活用する企業様に対して世界規模での分業を可能にし、どの場所からもシステムを利用することができます。従来のSI構築と自社内リソースによる運用と比較して、35～70%のコスト削減が可能です。

EHSでは2つのサービスを用意しています。まず、グローバル規模でSAP社のソリューションを活用される企業様が多い中、日本で導入した環境と同等の高品質なSAP®運用環境を提供できるのが「EHS for SAP®」です。開発、試験から本番稼働、システム周辺といった、mySAP® All-in-One（旧SAP® R/3 Enterprise）使用に必要とされるすべてのサーバをご用意し、EHSデータセンターで24時間365日の運用を支援いたします。

また、「EHS for Exchange 2003」は、マイクロソフト社のExchange Server 2003を利用したホスティングサービスです。最近では情報漏洩対策、及び日本版SOX法の施行に向けた対策として、監査にも対応可能なメールデータの保管が求められています。保管した内容は、後から変更されることなく、モバイルアクセスなどの活用を含めて、容易に取り出せることが必要です。このような高機能・高付加価値への要望に応えるのがEHS for Exchange 2003です。

当社のデータセンターにExchange 2003システムとActive Directoryシステムを置くことで、災害対策と拡張性を両立した堅牢なシステムを実現しています。その上、企業システム管理者様向けに利便性の高いGUIツールを提供しています。

サービス、ファシリティ、プロセスを柱に、グローバルな展開を強化

―EHS for SAP®、EHS for Exchange 2003の詳細なサービス内容については別稿で紹介しますが、EHSを導入された事例としてどのようなものがございますか。

岸本　ある製造業者様は、M&Aによる事業拡大で、それまで使用していた複数のシステムを統一する必要に迫られていました。また、自社ビル内にシステムを設置しているので、災害に対するリスクも懸念されていました。そこでEHS for SAP®を導入してアウトソーシングを実現したことにより、日本、中国、北米、欧州といった海外の各拠点との連携と災害対策が可能となりました。その結果、自社内で運用されるケースと比較して費用を年間70%削減でき、ハードや設備のコストを年額12%以上削減することができました。

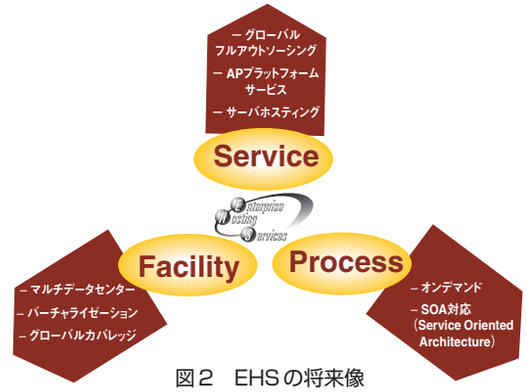

図2　EHSの将来像

――今後の展開についてお聞かせください。

岸本　図2のようなイメージで「サービス」、「ファシリティ」、「プロセス」といった3つの柱を基軸に展開していきたいと考えています。まずサービスですが、今年度中に、サービスの対価としてのハードウェア提供のみならず、お客さまの需要に応じた課金サービスをオンデマンドで提供していきます。ファシリティにおいては、「首都圏マルチデータセンター」への取組みを行い、プロセスではSOAに注目し、お客さまがいつでもリソースを最大限に活用できるようなデータトランスファーの仕組みを作ります。さらに、我々の強みであるグローバルネットワークについても、一層の強化を図っていきます。このような取組みにより、平成18年度は対前年比で売上30%増を目指します。

――本日はどうもありがとうございました。